



「しながわ チョウのみち 蝶の道」プロジェクト いよいよ始動！

大都市でも生き物たちと共存できる環境づくりを目指した「しながわ環境プロジェクト」として「蝶の道プロジェクト」（主催：品川区環境課、品川区環境情報活動センター、NPO法人エコタウンしながわ）がこの春、活動を開始します。

蝶の食草を植え、品川区に蝶を増やしていこうという今回の試み。実は勝島運河・鮫浜小学校・浜川中学校・大井第一小学校などでは数年前から活動を開始して、すでに成果がはじめています。単に蝶を増やすことが目的ではありません。蝶などの昆虫類は生態系のピラミッドの底辺の一つです。この昆虫類を増やすことで、鳥類も増えてきます。自然環境のバランスを大都市の中にあっても保って

いこうというのが、今回のプロジェクトの大きな目的です。

大井第一小学校の生徒たちは、「蝶が飛んでいる空を大切にしなければいけない」「蝶がいるから花があること、小さな命にも大切な使命があること」などを体感し、学びとっています。

この春から品川区のプロジェクトとして、各地域でこの活動が始まります。皆さんもぜひご参加ください。



ボランティア募集！ 蝶の食草園づくりに 参加しませんか？

食草園を作り、管理を手伝っていただけのボランティアの方を募集します。詳しくは環境課までお問合せください。

場所／大井ふ頭中央海浜公園など
区内10ヵ所以上
活動開始／4月

申込み／電話で環境課環境推進係
03-5742-6755

Email : kankyo@city.shinagawa.tokyo.jp

※現在までの活動場所

勝島運河・しながわ花海道・鮫浜小学校・浜川中学校・浜川公園・水神児童センター・大井第一小学校 他。

※19年度の活動予定場所

品川火力発電所・品川清掃工場・京浜運河緑道公園・大井ふ頭緑道公園・大井ふ頭中央海浜公園・大井野鳥公園・二葉幼稚園・滝王子児童センター・後地児童センター・三ツ木児童センター 他。



しながわ環境大賞決定！

平成19年2月17日（土）、「きゅりあん」小ホールで、しながわ環境大賞授賞式が行われました。

当日はたくさんの人たちが訪れ、開場前には行列ができるほど。受賞者の方たちは厳粛な雰囲気の中、授賞式に臨みました。しながわ環境大賞は、平成18年度品川区によって創設され、環境保全に関する活動が、他の団体の規範となる団体や個人を顕彰し、その活動を広く区民に紹介することにより、区民の環境保全に

関する自主的な取り組みを促進することを目的とするもの。今回初の「環境大賞」は「しながわ花海道プロジェクト」など三団体。授賞式では緊張した面持ちの受賞者たちも、記念撮影では笑顔がこぼれていました。この受賞をきっかけに、活動をより活発にしていきたいといった意気込みも聞かれました。

環境大賞の活動を紹介します

● **しながわ花海道プロジェクト**
「水辺の環境美化」と「花いっぱい運動」



「勝島運河の土手に花畑をつくろう」を合言葉に、しながわ花海道プロジェクトが産声をあげたのが平成14年7月。勝島運河の土手約2キロには、1.5m四方の区画が約1200枚あります。その区画を、地元住民や地元小中学校の生徒たち、企業の方々が、種をまき、花を育てる活動を続けています。4年間で、10回の種まきを実施。夏には菜の花、秋にはコスモスが咲き誇り「花海道」と呼ぶにふさわしい光景が広がるようになりました。

地道な作業を続けたこと、地域を振興させ、豊かなコミュニティを作り上げてきたことも評価されたようです。

● **南大井第四町会**
生活環境の保全と廃棄物減量の活動〜クリーン キャンペーン〜



わが町を、美しく、安全で、誰もが安心して暮らすことができ、かつ、将来も永く住み続けたいと願う町にしたい」そんな思いから始まった、南大井第四町会のクリーンキャンペーン。平成10年の4月より開始し、環境大賞申請時の平成18年11月時点で、104回の実施を数えました。もちろん、現在も更新中。

クリーンキャンペーン活動は南大井を中心に、毎月第3日曜日に行っています。毎回40名～50名の方々が参加。環境活動を通して、地域づくり、人づくりに貢献してきた南大井第四町会。目指すは150回の活動実績だそうです。

● **品川エトワール女子高等学校**
廃油の活用促進運動



スプーン1杯の廃油を排水に流すと、その排水をきれいな水にするために、お風呂10杯分の水が必要と聞き、とても驚いたという環境推進委員の生徒たちは、先生との話し合いの中で廃油を利用して石鹸をつくろうという話が持ち上がり、早速取り組んだと言います。ところが試作品は使うには躊躇するような色や匂い。それでもあきらめず、多くの人たちからの助言も取り入れ、昨年の「しながわECOフェスティバル2006」では、好評を得るまでに。常にチャレンジ、そしてあきらめない姿勢も好評価につながったよう。後輩にも引継ぎ、更なる発展を誓っていました。

☆環境賞 (6団体) ・トヨタエルアンドエフ東京(株) 地域環境保全活動 ・朋優学院 アトラクション部 ヒーローショー(アトラクション)を通じた環境啓発活動 ・品川区立 第一日野小学校 環境学習への取組「学校から家庭・地域の活動へ」 ・品川区立 西中延保育園 エコ教室「親子で作ろうリサイクル工作」 ・品川区立 荏原西保育園 保育園における環境教育 ・こどもエコクラブ「空の会」 小さなことからはじめよう！「空手道場からエコキック！」

※受賞者には賞状とクリスタルのトロフィー、大賞受賞者には副賞として区内共通商品券が授与されました。

close-up 人



エコサポーター 大島ゆう子さん

環境コンサルタント会社に勤めている大島ゆう子さん。大学時代は海洋研究をされていました。専門知識が豊富で、環境情報活動センターで、いつもいろいろなことを教えてくれます。

3月17日（土）に行われた講座「海へとつながる私たちの暮らし」の工藤孝浩先生を紹介してくれたのも実は大島さん。講座の企画からお手伝いいただきました。

そんなキャリアウーマンの大島さんですが、学生時代は国立科学博物館で教育ボランティアをし、子どもたちとかかわってきたそうで、とてもまきさくな方。笑顔が魅力的です。環境に関することを地元でも何かできないかと思い応募してくれました。

「環境についての問題はセンサー

シヨナルに取り上げられがちですが、実際に何が起きているのか、多くの人が身近に知り、考える機会を持てるといいですね」

と語る大島さん。環境情報活動センターに欠かせないサポーターです。

あなたもエコサポーターになりませんか？

エコサポーターとは、環境情報活動センターで開催される『環境学習講座』のお手伝いをしてくださるボランティアの方々です。募集は随時受け付けています。まずはお電話かメールでお問い合わせください。

環境記者募集中！

エコロジー生活の紹介など身近な環境情報を提供してくれる「環境記者」を募集しています。提供された記事や写真はHPや情報紙に掲載していきます。また環境記者同士の情報交換会も開催しています。HPなどで掲載されたものについては、薄謝を進呈します。

登録条件：区内在住、在勤、在学の環境に関心をお持ちの方

登録申請方法：電話かメールでお知らせください。申請登録書を送付いたします。

リサイクルショップリボンをご存知ですか？

家庭で眠っている不用品をお持ちください。

リサイクルショップリボンは、現在、大井町店と旗の台店があります。大井町店は大・小家具や贈答品など、旗の台店は衣類を中心に陶器やバックなどを取り扱っています。

出品を希望する方は事前に登録・予約が必要です。品川区外の方もご利用いただけます。登録できるのは18歳以上の方。住所、年齢が確認できるものを持ってご来店ください。手数料は出品1点につき100円。販売実費として売上の40%をいただきます。大井町店は委託販売のみ。販売期間は4週間です。旗の台店は買取販売も行っています。詳しくはお電話でご相談ください。

*定休日 両店ともに水曜日

旗の台店 旗の台5-13-9【旗の台駅南口下車3分】03-5498-7803
営業時間 午前11時～午後7時まで
(毎月末の日曜日・祝日は午後5時まで)
取り扱い品 衣服など日用品

大井町店 広町2-1-36【第3庁舎2階】03-5742-6933
営業時間 午前11時～午後5時半まで
取り扱い品 大型家具、贈答品など

フェア開催のお知らせ

※5月24日～6月12日 和洋食器・ガラス器特集
※7月15日～7月31日 寝具・タオル売り出し

書評

book review



『はなかつぱ あきやまただし』
あきやまただし【著作】
メディアファクトリー
(本体1,100円+税)

かつぱいけに住む、はなかつぱくん。ちょっと変わったこのかつぱくんは、頭にお皿ではなくて、きれいな花が咲いています。おとうさん、おかあさん、おじいちゃん、おばあちゃん、そしてきれいな水や空気はなかつぱくんの大切なもの。はなかつぱくんの楽しい日常を描きながら、自然やいのちの大切さをさりげなく教えてくれます。ちいさなお子さんと一緒に楽しめる絵本です。



『【省エネ編】地球環境にやさしくなる本』

(財)省エネルギーセンター【監修】
PHP研究所【編】
PHP研究所
(本体1,500円+税)

環境問題ってなんだか難しく、一体何をどうしたらいいのかわからない。そんな人におすすめの一冊です。省エネって何？地球温暖化って何？といった素朴な質問に問一答方式で、図や絵もちりばめながらやさしく解説してくれます。日本や世界の取り組みの紹介や、私たちにもできる生活改善の提案などもしています。興味のあるところから読めるのも魅力のひとつ。巻末の省エネチェックで生活を見直してみたいかが？

フォトジャーナリストの桃井和馬さんが 環境情報活動センターで講演します！

取材を通して出会った人やもの、自然、この地球の生きとし生けるものすべてを大切に考えていきたい、という桃井和馬さん。著作も写真集はもちろんですが、地球環境の視点で綴った『破壊される大地』や、地球や自然、いのちの尊さをえがいた絵本『好きなのに』など、多彩に活躍されています。「環境の問題は1、2年の単位

で考えてはだめなんです。千年先を見つめて、今、何をすべきかを考えていきたい。一人ひとりが環境の問題に真摯に向き合うことが大切だと思います」。

桃井さんの講演は、5月12日(土)環境情報活動センターで行われます。皆さんと一緒に地球環境のこと、いのちのこと、考えてみませんか？



■講師プロフィール：1962年生まれ世界140カ国を「環境」「紛争」「歴史」を軸に取材。独自の切り口で「文明論」を展開している。3月に写真集『この大地に命与えられし者たちへ』を上梓。

■環境講座「フォト・ジャーナリストの視点で環境を語る ～世界の辺境地で見て、考えた“地球といのち”～」

■日 時／5月12日(土)午後2時～4時

■場 所／環境情報活動センター（品川区役所第2庁舎 3階）

■定 員／30名（抽選）

■参加費／無料

■締 切／5月1日(火)までにハガキ・FAX・HPでお申し込みください。

品川区環境情報活動センターイベントカレンダー

●5月27日(日)

午前の部 11時～ 午後の部 14時～

「花育！自然に親しむ心と感性を育てよう」

不用品を花瓶にしたてて思い思いの花をいけ、自然に親しむ心を育て、感性を養います。

材料費・保険料 200円 定員 各回15名

●①6月23日(土)

14時～

「さき布でつくるぞうり」

古い布をさいて、編みなおし、ぞうりをつくります。手足を使い脳の活性化を。

材料費・保険料 330円 定員 25名

●6月下旬(予定) ※お問い合わせください。

「ヤコ救出大作戦」

冬の間プールにいたヤゴを、夏のプール行事が始まる前に救出します。

参加費・保険料 200円 定員 30名

●6月2日(土) 14時～

「ペランダ畑」～庭はなくても野菜は作れる～

野菜・草花・ハーブを植えて小さな「畑」を耕しましょう。

材料費・保険料 630円 定員 20名

講師 藤田 智(恵泉女学園大学助教授)

●7月7日(土) 10時～

「昆虫ふしぎ探検隊」

昆虫をテーマに発見とおどろきの自然観察&自然体験をしましょう。

参加費・保険料 200円 定員20名

場所 林試の森公園

応募方法は往復ハガキに希望の講座、講座日時、住所、氏名、年齢を書いて環境情報センターまで送ってください。HPからもご応募できます(その場合は、メールでの返信となります)。申込み多数の場合は抽選になります。

自由研究はお任せ！夏休み子ども環境講座

「地球温暖化について考えよう」

気象予報士がわかりやすく解説します。実験の様子を撮影してレポートすれば自由研究もバッチリ！

講座日程

●7月28日(土) 14時～

1時限目 地球はなぜ暖まるのか？

2時限目 植物の光合成実験

●8月7日(火) 14時～

1時限目 どんな影響があるのか？

2時限目 雲画像地球儀作り

●8月26日(日) 14時～

1時限目 どうしたら防げるのか？

2時限目 手回し発電機を使って電気を作る

対象 4年生以上の小学生、中学生

講師 気象キャスターネットワーク会員

「キッチンからはじめる
エコロジー」

地球にやさしい旬の料理をつくろう！身近な「食」を通して、楽しみながら環境問題を考えましょう。

講座日程

7月31日(火) 14時～

8月9日(木) 14時～

8月23日(木) 14時～

対象 小学生

場所 きゅりあん4階 調理室

※応募方法などは広報しながわでお知らせします。

しながわECOだより 2007年春号

発行：品川区環境清掃事業部

編集：特定非営利活動法人 エコタウンしながわ 発行日：平成19年4月20日

住所：〒140-8715 品川区広町2-1-36 品川区環境情報活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp http://shinagawa-eco.jp/

見上げた空がクリーンであるよう
今できる一粒の種をまこう

し
な
が
わ

ECOだより



～品川区環境情報活動センターだより 2007年夏号

区内をくまなく歩いて
ECOの種発見!



環境記者 活躍中!

環境情報活動センターでは、環境記者になっていた
だけの区民の方々を募集しています。現在22名が登録
されています。主婦の方、写真が趣味の方、植物に造
詣が深い方、企業で環境への取り組みを推進されてい
る方、町会や自治会などで活動されている方など、
様々な方がいらっしゃいます。この方々から、区内の
環境に関する情報・記事が日々寄せられています。

ホームページで公開しているものの中から、一部記
事を抜粋してご紹介します。

トゲノコギリガザミ
平成19年7月1日(日)
場所：京浜運河



品川区の海にも、こん
な大きなカニがいまし
た。大きさは足まで入れ
ると30cmもあります。

このカニ、普通は浜名
湖以南に棲んでいるの
ですが、東京湾奥で見つ
かるのは珍しいと思い
ます。運河で見つけた
のは、今回を含めて3回
目となります。今、運
河の水は少しずつきれ
いになって、海の生き
物も増えつつありま
す。

■青野良平 記者

30年にわたり、京浜
運河の貝の調査をライ
フワークとしてきた青
野さん。ご自身のホー
ムページも公開されて
います。

(<http://members12.tsukaeru.net/aono/>)

ジャコウアゲハの産卵
平成19年6月20日(水)
場所：勝島運河



運河の土手でジャコウ
アゲハを見つけました!

“どこかにとまったら
写真が撮れるなあ…”と
思っていたら、ウマノス
ズクサにとまり、なん
と!産卵を始めました!
1mm位の赤くてカワイ
イ卵でした。

■吉仲理恵 記者

小学生の男の子を子
育て中のお母さん。「身
近な自然を大切に」とい
う思いから、様々な活
動をされています。

命のあさがお大作戦
平成19年7月5日(木)
場所：西大井駅前



ちで育てた朝顔の花
苗を地域の方々に配
り、「街中を花でいっ
ぱいしましょう」と
呼びかけました。道
ゆく人たちは花苗を
嬉しそうに受取って
いました。

■内田雅弘 記者

杜松小学校では「命
のあさがお大作戦」と
題して、5月から1年
生が種を蒔き、朝顔
を育てることを通し
て、命の大切さ、す
ばらしさを学んで
きました。

7月5日、梅雨の晴
れ間の西大井駅前
で、自分た

自身の足と自転車
で区内をくまなく回
り、収集したたく
さんの情報をセン
ターに持ち込んで
くださる内田さん。

公園や街中、路地
で咲く花々の写真
を撮りまとめた
「しながわの花便
り」なども提供し
ています。

環境記者・情報交換会



6月30日土曜日、9名の環境記者が集まり、情報交換会が行われました。特別顧問に「グラフしながわ」元編集長の佐山吉孝さんをお迎えしての開催です。

難しく考えがちな環境問題ではあるけれど、何を快

適と感じるかという、自分の身体感覚に近いところの環境という概念から、まずは大事にしていこうではないか、と佐山氏は言います。その上で「バチが当たる」「我慢する」「もったいない」「互いを思いやる」など、日本人が当然の感覚として身につけているものが、クールジャパンとして世界から尊敬されていること、日本の美徳として再認識すべきことを指摘されました。

その後、「水の記憶」と題して、品川用水の面影を残す西大井近辺の町並みを、佐山さんご自身が撮影した写真のスライドを用いて解説。記者たちは水が日常生活に溶けこんでいた時代へと思いを馳せました。



環境に関することなら何でもOK! 年齢制限・応募資格なども一切ございません。記者の方から提供していただいた記事や写真は当環境情報活動センターのホームページや情報紙等に掲載していきます。また、年に4回、記者が集まって情報交換会を開催します。興味のある方はセンターまでご連絡下さい。

ゴミゼロサークル始動!

～使い古した布を裂いて ぞうりを作ろう～



平成19年6月23日、環境情報活動センターで「環境リサイクル講座～さき布から“ぞうり”を作ろう～」が行われました。布ぞうりブームも手伝ってか、20名の定員になんと420名が応募するという人気講座に。当日は、新宿環境リサイクル活動の会から講師を迎え、受講者たちが熱心に布ぞうりを作りました。現在はこのメンバーたちが中心となって、サークルとして活動を始めています。



現在、布ぞうりのサークルメンバーは25名。月1、2回活動を行っています。熟練した方たちは、すでに講師となってメンバーの指導に。

このサークルの目標のひとつは「ゴミを出さない」こと。古い布や服を活用するだけでなく、切り裂いた小さな布も大切に織り込んでいきます。

また、もうひとつは物を大切にするという日本人のよき文化を育てていくことです。「母のその母の代からのゆかたが、たんすでたくさん眠っています。何とか生かしたい。布ぞうりとして再生させたいんです。」という声もいただいています。

布ぞうりの制作だけを目的にするのではなく、そこから物を大切にすることや、リサイクルに対する関心が高まってくるようセンターでは支援していきたいと思えます。

「布ぞうりを作ってご近所に差し上げたら、この服も裂いて使ってくださいいただきました」という受講者の方もいらっしゃいます。少しずつ、交流の輪がひろが

り、リサイクル全般に対する意識が高まっているようです。

今後、受講者の熟練した方については、講師として登録してもらい、センターから派遣したり、センター内でも講座を開催していく予定です。お楽しみに。



蝶の道プロジェクト

中間報告！

今年4月に始動した『蝶の道プロジェクト』。各地域で食草の苗木や花を植え付け、すでに「幼虫やさなぎを見つけた！」「ナミアゲハが飛んできた！」といった報告をあちこちから受けています。

そんななか7月11日には、鮫浜小学校で「蝶の道」特別授業が行われ、「NPO法人エコタウンしながわ」の南孝彦さんが、3年生の子どもたちを前に蝶や花など生き物の住む自然環境の話をしました。その後、学校の畑に行き、蝶の好きな草花などについて調べました。虫好きの子どもたちの中にはむずかしい質問を熱心にする

姿も。講師の南さんは「食草を植え、幼虫やさなぎを観察する。こうした体験を通して、自然の不思議さや命の大切さを実感してもらえればと思います」と語っています。秋には蝶の観察会も予定、ますます関心が高まってくるでしょう。

品川区の各地域で蝶の道プロジェクトを展開中です。より詳しい情報はホームページhttp://shinagawa-eco.jp/mt_bt/をご覧ください。

また皆様からの情報や写真も募集中です。E-mail: chou-no-michi@shinagawa-eco.jpまでお願いします。

※南孝彦さんのチョウの話は、鮫浜小学校のほかにも行っています。また、10月から毎日小学生新聞で連載される予定です。こちらもお楽しみに。



南さんの話を熱心に聞き入る子どもたち



ツマグロヒョウモン

食草園を見に行こう！

<食草園一覧>

品川清掃工場・品川火力発電所・中央海浜公園・しながわ花海道・八潮団地・大井第一小学校・鮫浜小学校・立会小学校・第四日野小学校・浜川小学校・八潮小学校・浜川中学校・二葉幼稚園・ゆたか保育園・後地児童センター・大井倉田児童センター・水神児童センター・滝王子児童センター・三ツ木児童センター・ゆたか児童センター ……

各施設に連絡してから行ってね！（一部入れないところもあります。）

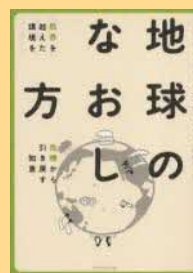
書評 コーナー



『地球はえらい』

案：城雄二
文：香原知志
絵：松岡達英
福音館書店
(本体1,200円+税)

地球が誕生して以来、数え切れないほどの種類の生き物が、この星で生まれ、育ってきた様子が描かれています。地球があるから人間も生きてこれました。「地球はえらい、地球はすごい、だからこそ地球の自然や生き物を大切にしなければ」という思いを子どもたちに芽生えさせてくれる絵本です。



『地球のなおり方 限界を超えた環境を危機から引き戻す知恵』

著者：ドネラ・H・メドウス
：デニス・H・メドウス
：枝廣淳子
ダイヤモンド社
(本体1,200円+税)

近年、環境問題解決への取組みが活発に行われていますが、一つ一つの問題に対して個別に対応しているだけでは、必ずしも根本的な解決には至りません。なぜなら、一見無関係に思える様々な問題も、実は相互に関連しあっているからです。この本では地球環境全体を大きなシステムと捉え、そのシステムとどのように向き合っていくべきかを説いています。ちょっと難しそうに思えますが、かわいいイラストとともに、じっくり丁寧に解説しているので、新たな視点を持つためのキッカケの一冊としてみてはいかがでしょうか。

ヒーローショーでECOアピール 朋優学院アトラクション部の活動を紹介します

約2万人を動員する品川区主催のエコフェスティバル。毎年このイベントで、朋優学院アトラクション部のヒーローショーが行われています。今年のエコフェスティバルでも、写真のエコレンジャーが登場！子供達の喝采を浴びました。



朋優学院アトラクション部。創立25年以上、プロも輩出する伝統の部です。今回、高校にお邪魔し、練習風景を取材させていただきました。



卒業生でもあるプロのコーチから指導を受け、練習に熱が入ります。格闘シーンの練習は、まるで空手部です。部員の大半が女の子であるにも関わらず、みんな勇ましい限りです。日々の地道な練習の積み重ねが、ショーの完成度を高めていることを実感しました。

発表の舞台は、エコフェスティバルと文化祭。その他は年に4回以上、区内幼稚園にて環境ヒーローショーを行い、環境教育のお手伝いをされています。台本、衣装など、全て部員たちの自作だそ

うです。

環境を題材にしたショーをすることで、部員の方々自身の意識も変化し、いっそう環境に気を配れるようになったといいます。ゴミの分別やリサイクルなど、地域のお手本となるように振舞っているそうです。

環境への取り組みと、ヒーローショーへの熱い思いに、取材をしている私まで清々しい気分になりました。アトラクション部のみなさんのさらなる活躍に期待しましょう。

環境講座「昆虫ふしぎ探検隊」レポート

応募者多数のため抽選となった環境情報活動センター主催の人気講座「昆虫ふしぎ探検隊」が、7月7日（土）、林試の森公園にて実施されました。講師はNPO法人生態教育センター副理事の藤本和典先生。

ただ見るだけの自然観察ではなく、五感を駆使した「自然感察」をしようというのがこの講座です。五

感をフル稼働させ、昆虫を探します。子どもたちが昆虫を見つけると、その昆虫の名前から生態まで、先生の詳しい解説が入ります。

この日は、アオスジアゲハ、コシアキトンボ、ウスバカマキリ、アオコガネなどを発見。身近な公園にたくさん生き物がいることに、参加者は大いに興味していました。



環境情報活動センター 今後のイベント予定

①「世界に一つの花びんをつくりませんか？」

素焼きの一輪挿しに、文字入れ・絵付けをして、オリジナルの花びんをつくりましょう。

日時／8月1日（水）～8月31日（金）

10時～16時 材料費／無料

毎日先着10名様（直接、センターにお越し下さい）

引渡し日／10月1日（月）以降

なくなり次第終了です！



②「山野草 秋の寄せ植え」

生活に緑を取り入れ、山野草が創り出す静寂の趣きを味わいませんか。野菊・りんどう等を寄せ植えします。

日時／9月27日（木）13時半～15時半

講師／伊藤金美（園芸研究家）

定員／20名

材料費・保険料／530円

締め切り／9月11日（火）

③「ビオガーデンを設計しよう！」

上手に緑を選んで、庭やベランダに、鳥や昆虫・蝶たちが遊びに来る「ビオガーデン」を作りましょう。

10月13日（土）14時～16時

講師／藤本和典（NHKラジオこども相談員）定員／30名

材料費／200円

締め切り／9月28日（金）

※②と③の応募方法は、往復ハガキに希望の講座、講座日時、住所、氏名、年齢を書いて環境情報活動センターまで送って下さい。ホームページからもご応募できます。申込み多数の場合は抽選になります。

しながわECOだより2007年夏号

発行：品川区環境清掃事業部

編集：特定非営利活動法人エコタウンしながわ

発行日：平成19年8月10日

住所：〒140-8715

品川区広町2-1-36

品川区環境活動センター内

TEL/FAX：03-5742-6533

E-mail：center@shinagawa-eco.jp

HP：http://shinagawa-eco.jp/



だより ECOリ

品川区環境情報活動センターだより 2007年秋号

広げよう！エコな街！

品川区商店街連合会の取り組み



地域に根づきつつあるリサイクルとレジ袋削減への動き。環境を意識したこのような取り組みの立役者となっているのが品川区商店街連合会（以下、区商連）です。品川区全域で展開されている、区商連のエコな活動の特集します。

●区民参加型のリサイクル

区内の商店街で右上の写真のような機械を見かけたことはありませんか。区商連が設置しているこの「エコスポット」は、飲み終わった後のかさばる缶やペットボトルを回収し、中で圧縮して収納する優れたものです。さらに、缶やペットボトルを投入すると、専用のカードにポイントが溜まっていき、500ポイントまで溜まると商店街で使える商品券と交換できる嬉しい特典もあります。現在、区内の11の商店街に設置しており、多くの区民の方々にご利用いただき、資源のリサイクルに役立っています。

この「エコスポット」、実は舞台裏には多くの苦勞があります。飲料が入ったまま投入すると機械が故障してしまいますし、容量いっぱいになれば、圧縮された中身を近くの保管場所まで運ばなくてはなりません。これがまた重労働なんです。しっかりとした管理には人手と労力が不可欠でした。設置当初は、「缶が詰まって動かない」など、苦情やトラブルが後をたちませんでした。ボランティアの方々や近隣のお店の方々の協力によって、厳しい時期を乗り越え、今日まで維持されてきました。

設置から4年余りがたち、区民の方々も機械の使い方に慣れ、トラブルは減りました。また、最初はポイントを溜めて商品券に交換するのが目的だったのが、純粋にリサイクルに貢献したいという思いが徐々に高まり、そのことも苦情やトラブル減少の理由になっているのかもしれません。

●レジ袋削減へ



「エコスポット」と並んで、区商連が進めているもう一つの取り組みが「マイバッグ運動」です。区内の商店街で買い物をした際に、レジ袋を断ったお客様にコインを渡し、集めたコインを商品券と交換する運動です。このコインは、商店街事務所などに持っていけば、「エコスポット」カードにポイントとして加算することもできます（コインのまま集めても、カードにポイントとして集めて

も、どちらでもかまいません）。マイバッグを奨励し、無駄なレジ袋を減らすためのこの運動は、区内の44商店街、約600店舗が参加しています。

区商連では、エコスポット事業やマイバッグ運動を広めるために、様々な場所で教育活動、啓蒙活動を行っています。地域全体で環境に対する意識を高め、地球にやさしいライフスタイルを定着させるべく、積極的に活動中です。



小学校での活動風景

品川区商店街連合会HP
<http://shoren.shinagawa.or.jp/>

次ページもレジ袋関連の記事です

GO!

突撃アンケート マイバッグ持っていますか？

みなさんはマイバッグを持っていますか。持っているだけでなく、実際に普段の買い物で使っていますか。レジ袋削減への取り組みは、自治体、商店街、スーパーなど、どこも積極的に行っています。今年に入り、スーパーのレジ袋有料化に関するニュースもよく目にするようになりました。このような動きを買い物客はどのように見つめているのでしょうか。大崎にキャンパスのある立正大学の学生13人が、品川区内のスーパーで、レジ袋に関する買い物客からの聞き取り調査を行いました。



立正大学文学部社会学科の田陽和久先生のクラスでは、社会調査実習の一環としてスーパーのレジ袋に関する意識調査を行っています。今回、買い物客に対して行われた調査結果の一部をお借りし、レジ袋削減のためには何が必要なのかを、ECOだより編集部で独自に考えてみました。

●マイバッグ

あなたは買い物のときに使うマイバッグを持っていますか？



このように、マイバックを持っている人は、かなり多いことが分かります。しかし、それを普段の買い物でいつも使っているとは限らないようです。実際の調査時も、その日にマイバックを持参していた人は61.5%よりもかなり少なかったようで、持っただけでも使われていない実態が窺えます。マイバックが家庭にあったとしても、外出した後で忘れたことに気づく場合も多いので、玄関などの

生活の動線上に目立つように配置しておくことが大切です。また、マイバックは折りたためばとてもコンパクトになるので、外出時のメインのカバンに常に入れておくのも良いでしょう。

●レジ袋を受け取る理由

レジ袋を受け取るようにしている人に、その理由を聞いたところ、以下のような回答がありました。

- ・買い物の量が多いから
- ・家庭でゴミ袋として再利用しているから

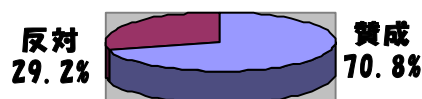
スーパーではまとめて買いをする人も多いので、一つのマイバックでは買った品物が入りきらないという実態があるようです。普段から2、3個のマイバックを持ち

歩いていない限り、結局レジ袋も使わざるをえないことになるので、1枚受け取るのも2枚受け取るのも大差はないということでしょうか。

そしてゴミ袋として再利用するという人は、もしスーパーでレジ袋を受け取らなければ、別に「ゴミ袋」を買わなくてはならなくなり、資源の節約にはならないと考えているのかもしれませんが。この意見は確かに一理あります。しかし、無自覚に受け取ったレジ袋と、お金を払って買った「ゴミ袋」では、使うときの感覚が違って来るように思います。無自覚に受け取ったものは、やはり無自覚に捨てられる可能性も高くなるのではないのでしょうか。特に小さいレジ袋は、ゴミ袋としては使いにくく、結局そのままゴミとして捨ててしまうことも考えられます。

●レジ袋有料化

レジ袋の有料化に賛成ですか？ 反対ですか？



上のグラフのように、有料化に賛成の人が多数派のようです。資源の節約が大切だと考える、環境意識の高まりが反映されたのではないのでしょうか。有料化されれば、レジ袋を受け取ることへの抵抗感が増して、マイバッグ持参率が上がるのが予想されます。しかし、あまり安い値段に設定すると、気にならずに今まで通り受け取ってしまう可能性もあります。アンケートでは、有料化に賛成した人に対して、**何円が妥当だと考えるか**も聞きました。結果は、5

円と10円に回答が集中し、全体の70%を占めました。一方、11円以上の額を答えた人は10%程度にとどまりました。もしかすると、11円以上の高額に設定することが、明らかな抵抗感を生み、レジ袋削減を一気に進めるためには効果的なのかも？

スーパー側は、レジ袋を有料化した場合、無料で配布する他店にお客を取られるのではないかと心配があり、このことが一つの壁となっています。この壁を乗り越えるためにも、有料化をする際には、多くの店が足並みを揃え、また買い物客もレジ袋を受け取らないことが当然であるという意識を持つことが必要だと考えられます。社会が一致団結して資源節約を目指すことが求められています。

環境 コラム



温暖化の不思議 新聞やテレビで毎日のように地球温暖化のニュースを目にしていますが、実際何が問題で、どのくらい深刻なのかと聞かれると、はっきり答えられる人は少ないのではないのでしょうか。またそれらのニュースは、なるべくシンプルで、インパクトが強くなるように編集されているので、私たちはときに誤解をして、間違った知識を持ってしまいます。このコラムでは、私たちがややもすると思い違いをしてしまう事柄について、その真相を探っていきます。

温暖化は何が問題なの？

まずはクイズから。

Q 1. 温暖化がすすむと北極や南極の氷がとけ出す？

YES or NO

Q 2. 北極や南極の氷がとけ出すと海面が上昇する？

YES or NO



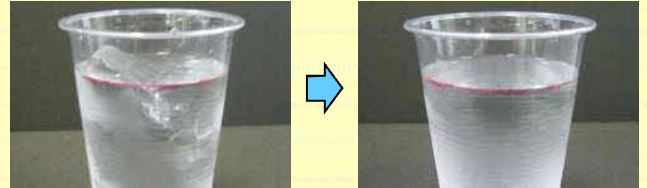
どうでしょう。簡単そうですね。では答えを発表します。まず**Q 1.**の答えはもちろん**YES**。温暖化が進んで、北極・南極のなかで温度が0℃以上になる部分がでてくれば、当然氷が

海にとけ出していきます。

ではそれを受けて、**Q 2.**の答えはというと、実は**NO**なんです。これはちょっと意外ですね。「氷がとけたら海水が増えるんだから、海面は上昇するはずだ」と思いたくなります。でも違うんです。

北極と南極では少し事情が違うので、まずは北極について説明します。北極というのは海に浮かんでいる巨大な氷の塊です。この浮いている氷は、とけて水になったとしても、水位に変化は与えません。試しにコップの水に氷を浮かべ、とける前と後で水位が変わるかどうか観察してみてください。結果は増えもしないし、減りもしない。これ

は、氷はとけるときに体積が減り、最初に水に沈んでいた部分の体積とちょうど等しくなるからです。たとえ巨大な北極の氷全てがとけたとしても、海面は上昇しません。



(浮いている氷は、とけても水位は変わらない。)

次に南極についてですが、南極の氷は陸地の上に乗っています。海に浮いているわけではないので、氷がとけて陸から海に流れ出せば、それだけ海の水が増え海面は上昇しそうです。ところが・・・温暖化が進めば海水の蒸発が活発になり、水蒸気は雲となって雨や雪を降らせませす。もし風が海から南極のほうへ吹いていけば、水蒸気は結局、雪となって南極のまだとけていない部分に降り積もり、氷となります。しかも、南極の中心部は圧倒的に温度が低く、温暖化ぐらいでは絶対に氷はとけないため、降り積もった雪のせいで南極中心部の氷はむしろ増えてゆくこととなります。よって南極も、温暖化で氷がとけ始めたとしても海面の上昇は引き起こさないというのが、研究者たちの共通見解であるようです。

ここで再びクイズです。

Q 3. 北極・南極の氷がとけ出しても水位に影響がないのなら、温暖化しても海面は上昇しない？

YES or NO

答えは**NO**。海面は上昇します。これも意外ですね。もう何が何だか分からなくなってしまうようですが、これも単純な理由があります。海面が上昇するのは、「氷がとけるから」というよりも、「海水が膨張するから」なんです。一般的に温度が上がると、物質は膨張します。膨張するのは海も陸地も一緒なのですが、海と陸地では“膨張率”に差があります。温度が上がった時に海のほうが陸地より膨張しやすいため、相対的に海水の体積が大きくなり、海面が上昇するわけです。

「海と陸地の膨張率の差で海面が上昇する」というのは、なんだか小難しくイメージしづらいですよね。一方、「北極・南極の氷が溶けて海面が上昇する」というのはとてもイメージしやすい。何となく信じてしまいがちです。

温暖化は止められる？

では最後のクイズです。

Q 4. 人間が排出するCO2さえ減らせば、温暖化は確実にストップする？YES or NO

YESかNOで答えろと言っておきながら、申し訳ないのですが、実はこの答えは誰にも**分かりません**。未来のことだから分からないのは当然なのですが、それ以上に、温暖化はいくつもの要素が複雑に絡み合っていて、正確な予測が立てにくいという面があります。専門家たちの最新の研究のなかで、CO2が原因であるらしいということが結論付けられ、それを元に様々な対策が講じられているわけですが、それらの対策を実行すれば温暖化が必ずストップするのかもしれない、そうとは言い切れません。しかし、「どうなるか分からないなら対策なんてとる必要はない」というわけにもいかないので、ある程度の予測を立てつつ、可能な対策を実行していくことは大切です。CO2削減は、その実行可能な対策の一つということになります。

私たち個人が、温暖化を含めた環境問題と向き合うとき、何が実行可能な対策となるのでしょうか。それはやはり、環境に優しいライフスタイルを確立することだと思います。節電、リサイクル、エコバックなど、個別の対策を全てひっくるめた、環境負荷の少ないライフスタイルを目指すべきです。「どうなるか分からない」未来の世代に生きる子孫のためにも、なるべく地球を痛めつけずにおきたいものです。健康な地球と、環境に優しいライフスタイル、この二つをセットにして未来の世代に残していけたら素敵ですね。

蝶の道プロジェクト

『蝶の道プロジェクト』とは、品川区内に「蝶のレストラン（食草園）」を作り、蝶の飛び交うエリア「蝶の道」を広げていく活動です。このたび、推進協議会と観察会などが開催され、プロジェクトの成果や今後の展開などについて話し合われました。

蝶の道推進協議会

8月30日（木）「蝶の道推進協議会」が開かれました。八潮、鮫洲、花海道、東大井、大崎、平塚などから、地域ボランティア、小学校保護者、保育園、児童センター、東京電力、自宅で食草園を以前から作っている方など、多くの方に参加いただきました。

プロジェクトのコンセプト、各人の経過報告、これからの目標などを話し合いました。後半はお互いへの質疑応答などで大いに盛り上がりました。

参加者は皆、チョウや虫を育てています。育成には自然環境のバランスが大事であることを理解されて行動していました。また子どもたちがチョウを育てることにより「心」が変わってきたというお話もあり、大変有意義な会議となりました。

蝶の道 観察会

9月29日（土）「蝶の道観察会」を行いました。まず鮫浜小学校で、食草園を見ながら、蝶の道プロジェクト事務局の南孝彦さんより説明を受けました。

昨年植えた、アシタバ、ウマノスズクサは大きく成長しており、アシタバにはセリ科特有の形をした花がたくさん咲いていました。

その後、花海道（勝島運河）に移動。花海道プロジェクト事務局の永尾章二さんに運河の話をしていただきました。花海道では、

ジャコウアゲハの卵、幼虫、サナギを見ることができました。雨のため、ジャコウアゲハ、ツマグロヒョウモンなどの成虫は見れませんでした。葉の陰で雨宿りをしているモンシロチョウを見つけました。色々な質問を受けながら、2時間程の観察会を行いました。

当日は、読売新聞ジュニアプレスの記者（高2、小6、小5）たちと、グラフしながわの記者も参加されました。取材の結果は、「読売新聞」は10月20日夕刊に掲載されました。「グラフしながわ」は来年3月頃の号に掲載予定とのことです。



花海道での観察会

食草園で保護したキアゲハが羽化しました



(撮影：杉山純子)

8月中旬、立会小学校の今年作ったばかりの食草園で、アシタバの葉に幼虫が二匹いるのが発見されました。アシタバの葉がまだ小さく、幼虫が育つのに十分な量はなさそうだったので、PTAの杉山さんが自宅に保護し、八百屋で買ってきたアシタバを与えていました。数日後サナギになった2匹は、8月30と9月1日に無事羽化しました。

来年には食草園のアシタバも大きくなるので、保護する必要もなく幼虫は元気に育ってくれることでしょう。

- 10月24日（水）テレビ東京の番組「すなっぷ（19：55～20：00）」で「蝶の道プロジェクト」の様子が放映されました。
- 11月15日（木）芝浦工業大学オープンテクノカレッジ講演で、南孝彦さんが蝶の道プロジェクトの話をします。
- 毎日小学生新聞（10月10日・水曜日発行）内「チャンネルサラダ」で「蝶の道プロジェクト」のコラムがスタートしました。（今後は不定期に掲載。）
- 毎日小学生新聞（10月14日・日曜日発行）の「学校も街も緑いっぱい生き物いっぱい」のコーナーで、環境絵本のキャラクター「はなかつぱくん」とのコラボがスタートしました。（毎月第二日曜日に連載。）

環境情報活動センター 今後のイベント予定

- 11月17日（土）14:00-16:00
「温暖化防止に向けて『環境マネジメントシステム』を導入しませんか！」
（事業者向け講座）
費用：無料 締め切り：11月5日
- 11月24日（土）14:00-16:00
「どんぐりカレンダーを作ろう！」
費用：200円 締め切り：11月12日
- 11月25日（日）14:00-17:00
「お金にまつわるエコ知識～人・環境・地域にやさしいお金の預け方～」
費用：500円 締め切り：11月19日

- 12月16日（日）
ネイチャーラフトでクリスマス
①松ぼっくりのツリー 10：00-
②自然素材のリース 14：00-
費用：200円 締め切り：11月30日
※応募方法は往復ハガキに希望の講座、講座日時、住所、氏名、年齢を書いて環境情報活動センターまでお送り下さい。ホームページからもご応募できます。申込み多数の場合は抽選。

しながわECOだより2007年秋号

発行：品川区環境清掃事業部
編集：特定非営利活動法人エコタウンしながわ
発行日：平成19年11月10日
住所：〒140-8715
品川区広町2-1-36
品川区環境情報活動センター内
TEL/FAX：03-5742-6533
E-mail：center@shinagawa-eco.jp
HP：http://shinagawa-eco.jp/